地震

津波

風水害

火災

保存版

わが家の防災対策

わが家の避難場所	
家族が離れ離れになったときの集合場所	

八丈町

町民のみなさまへ

平成23年3月の東日本大震災は、地震、津波など自然災害の猛威を見せつけました。東日本大震災を機に本格的に防災対策を進めたというご家庭も多いと思います。また、東京都大島町では、平成25年10月、台風に伴う大雨により、全半壊90戸という大規模な土砂災害が発生しました。

災害の発生を止めることはできませんが、事前に防災対策をしておくことで、被害を軽減させることはできます。また、大規模災害の初期においては、行政の手が十分に行き届かないこともあるため、住民の皆さん一人ひとりが、防災への関心を高め、地域の防災力を高めておくことが重要です。自分の命は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」が被害を軽減させる大きな力になります。

防災対策は、一度で完成するものではありません。日常的に点検して、不備があれば見直していく。この見直しを地道に繰り返しながら継続する必要があります。

この「わが家の防災対策」は、災害への準備と災害が起きたときの対処方法をまとめたものです。防災への取り組みを再確認し、災害の備えにご活用ください。

八丈町

八丈町防災訓練日　毎年10月5日
防災無線個別受信機の点検（電池は年1回交換を）

もくじ

八丈町の災害記録 …… 1

地震対策編

●地震が起きたらどうするか? …… 2
●家の中の安全対策 …… 3
家の中の安全対策のポイント

津波対策編

●津波の危険から身を守ろう …… 4
津波から命を守る対応チャート／津波に対する日頃の備え／津波から身を守る心得10か条／南海トラフ巨大地震による八丈町の津波被害想定

ハザードマップ

❶三根地域 …… 6
❷大賀郷地域 …… 8
❸樫立・中之郷地域 …… 10
❹末吉地域 …… 12
❺全島 …… 14

噴火対策編

●火山噴火から身を守ろう …… 16
噴火警戒レベル／噴火警戒が対象としている主な火山現象／その他の火山現象／知っておこう！火山防災の心得／火山灰に気をつける

風水害対策編

●土砂災害から身を守ろう …… 18
2つの警戒区域を知っておきましょう／土砂災害の前兆現象と避難するポイント／避難タイミング～危険を感じたら早めの避難／土砂災害からの避難のポイント／大島町の土砂災害を忘れずに

火災対策編

●火災による被害を防ぐ …… 20
もし出火したら…／火災を防ぐために／消火器の使い方を覚えておこう／本当に恐ろしいのは煙です!

総合対策編

●避難に関する知識を身につけよう …… 22
避難に対する基本的な考え方／避難に関する3つの情報／安全に避難するために／避難所生活を送るときは
●地域全体で災害への備えを …… 24
自主防災組織とは／自主防災組織の役割／要配慮者を災害から守ろう
●いざというときの応急手当て …… 26
覚えておきたい応急手当てのポイント／AEDの使い方／災害時の医療
●防災対策は家庭から …… 28
家庭で防災について話し合おう
●準備しておきたい非常持出品 …… 29
非常持出品～災害発生時に最初に持ち出すもの／備蓄品～復旧するまでの数日間を支えるもの
●防災ダイヤル／防災関係機関／避難所一覧 …… 裏表紙

台風13号（1975年）

八丈町の災害記録

八丈島近海地震（1972年）

土砂崩壊	1917（大正6）年 12月13日	死　者　17人 負傷者　10人	末吉名古山が突然崩壊。
	1973（昭和48）年 9月19日	一部土砂が民家に流入	名古の展望台と名古地区の中間付近が約150㎥崩落。
	1998（平成10）年 9月7日	軽　傷　1人	1時間に70㎜を超える雨により名古川から土石流などが発生し、土砂にまきこまれ、運転していた男性が軽傷を負った。
台風	1938（昭和13）年 9月24日	死　者　1人 行方不明者　12人 重軽傷者　33人	南南西の風37.3m/s（瞬間最大風速60m） 被災場所として南側の末吉地域が最大であり、人的被害のうち死者・行方不明者は漁船遭難によるものである。
	1975（昭和50）年 10月5日	重軽傷者　85人 被災者数　6,771人	瞬間最大風速67.8m/s 台風来襲が日没前であったこと通過速度が早かったため人的被害がすくなかったといわれ、不幸中の幸いであったが、住家被害等や生活関連施設の被害が甚大であった。
	1995（平成7）年 9月17日	軽　傷　者　1人	瞬間最大風速46.3m/s 中之郷漁港では、1000ｔ以上もある防波堤のケーソンが消失し、陸揚げされていた漁船7隻全てが破損流失した。
	2003（平成15）年 9月22日	全　壊　6棟 半　壊　19棟 一部損壊　154棟	瞬間最大風速59.5m/s 1時間の雨量84㎜ 約1500戸　停電（完全復旧は25日） 約8割の世帯で断水（完全復旧は23日夕方）
	2013（平成25）年 10月16日	全　壊　2棟 半　壊　11棟 一部損壊　83棟	瞬間最大風速44.7m/s 島内全域停電（完全復旧は16日午後3時）
地震	1972（昭和47）年 2月29日	家屋一部損壊 10棟	規模マグニチュード7.3 八丈島において　震度5 八丈島東方140km 深度　70km
	1972（昭和47）年 12月4日	家屋一部損壊 10棟	規模マグニチュード7.3 八丈島において　震度6 八丈島東方100km 深度　60km
竜巻	1964（昭和39）年 1月17日	重軽傷者　16人 全　壊　4棟 半　壊　21棟	中之郷方面から末吉海岸を通過し中心が通った洞輪沢では、末吉漁協と民家が巻き込まれ22世帯が被災した。
	1997（平成9）年 11月17日	重傷者　1人 軽傷者　5人 全　壊　4棟 半　壊　4棟 一部損傷　49棟	大賀郷で発生し東北東に3.5km進み海上に抜け屋根などが巻き上げられ、樹木やフェンスがなぎ倒された。

地震が起きたらどうするか？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きても「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生

- 落ち着いて、自分の身を守る
- 火の始末はすばやく
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する

緊急地震速報

強い揺れ（震度5弱以上）が始まる数秒から数十秒前に、テレビやラジオ、市の防災行政無線や携帯電話などで「もうじき揺れること」を知らせてくれます。**ただし、震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。**

1～2分

- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
- 非常持出品を手近に用意する

山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難

3分

- 隣近所の安全を確認
  特に一人暮らし高齢者など要配慮者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。
- 余震に注意

5分

- ラジオなどで情報を確認
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する

5～10分

- **子どもを迎えに**
  自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを家族で決めた場所に隠す（空き巣対策）
- **さらに出火防止を！**
  ガスの元栓、電気のブレーカーを切る（通電火災対策）

10分～数時間

- **消火・救出活動**
  隣近所で協力して消火や救出を。
  あわせて消防署等へ通報する。

～3日くらい

- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する

避難生活では

- 自主防災組織等を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を

家の中の安全対策

家の中には意外に危険なものがたくさんあります。地震のときに室内の家具が倒れたり、割れたガラス片が落ちていたりします。また、いざ避難しようとしたときに家具が出口をふさぐようなこともあり、日頃から家具を固定するなどの安全対策が必要です。

家の中の安全対策のポイント

●家具のない安全なスペースを確保する

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えをする。

●寝室などに倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生した場合、子どもや高齢者、傷病者などは倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れるおそれが高いので注意する。どうしても置かざるを得ないときには固定する。

●出入り口や通路にはものを置かない

いざというとき安全に避難できるように、玄関などの出入り口やそこに至る通路には倒れやすいものを置かない。

●家具の転倒や落下を防止する対策をとる

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすくて危険。また、家具の上に落ちやすいものを置かない。

食器棚
扉が開かないよう金具をつけ、内部にはさんやすべり止めをつけて、扉が開いても中の食器が飛び出すのを防ぐ。

照明器具
1本のコードでつるすタイプのものは、鎖と金具で数か所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。直付けタイプがより安全。

住宅用火災警報器
煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる。消防法改正により家庭でも設置が義務付けられた。

本棚・タンスなど
なるべく壁面に接近させておき、上部をＬ字型金具で固定するか、家具の下に板などをはさみ、壁面にもたれさせる。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結する。

窓ガラス
飛散防止フィルムを室内側にはる。

カーテン
防炎加工されたものを使う。

テレビ
できるだけ低い位置に置き、金具やロープ、装着マットなどで柱・壁に固定する。

暖房器具
ストーブなどの暖房器具は、対震自動消火機能のあるものに。